

## SPring-8利用者懇談会 - 研究会の活動始まる -

SPring-8 利用者懇談会 会長  
兵庫県立大学大学院 物質理学研究科  
坂井 信彦

SPring-8での研究活動をより活性化し、また社会により広く伝えることを念頭に置き、昨年度SPring-8利用者懇談会（利用懇）は新たに研究会組織を企画しました。そして本年3月に利用者より各種研究会の申請を受け、34の研究会を承認しました。ついでこの7月にそれら研究会は2カ年計画書を提出して、いよいよ活動を開始しました。各研究会は利用懇から財政的支援を得ることができます。またSPring-8の特定された研究員との間に相談窓口を持っていて、利用者は具体的な実験手法や実験装置の相談ができます。

表1に研究会の概要をまとめました。提出された活動計画から活動の内容を示す主要な語句を読み取り提示してみました。それぞれの研究会の活動の方向性がわかって戴けるかと思いますが、提出文書だけでは研究会の意図が十分に読み取れていないことを危惧します。今後、HPないしは「SPring-8利用者情報」に研究会紹介が連続掲載される予定なので、それをご覧ください。大半の研究会はこの夏から秋にかけて会合を予定しています。ご関心のある研究会への参画の機会を逸さないよう特にHPにご注意ください。また、どの研究会にも所属しておられない

表1 研究会の2006、2007年度の活動計画の概要

分野名称	研究会名称	活動計画の主たる内容
イメージング	X線マイクロ・ナノトモグラフィー研究会	実験技術情報交換、研究紹介、学協会との共催推進
	マイクロ・ナノイメージングと生体機能研究会	エンドユーザーの開拓、BL整備、HP整備
	X線トポグラフィ研究会	結晶性物質回折イメージングの開発・改良、産業利用
エネルギー・環境	顕微ナノ材料科学研究会	ナノ材料科学の発展、ナノテクノロジー支援事業との共催研究会
	X線スペクトロスコーピー利用研究会	勉強会 兼 SG打ち合わせ
	表面・薄膜ナノ構造研究会	研究者交流、表面物質構造科学分野の創生
バイオ・ソフトマター	結晶化学研究会	利用者拡大、情報交換
	タンパク質結晶品質評価研究会	タンパク結晶の品質評価の総合的・統一的議論の場
	X線構造生物学研究会	放射光構造生物学の今後の方向性を探る
ポリマーサイエンス	ソフト界面科学研究会	研究者間の総括的意見交換と議論
	小角散乱研究会	第13回小角散乱国際会議参加、高分子科学研究会と合同研究会
	高分子科学研究会	研究交流の活性化、講演会、関連企業の実験支援、若手育成
安全・安心社会構築	高分子薄膜・表面研究会	積極的な成果発信、大型外部資金への申請・獲得、若手育成
	金属疲労損傷評価研究会	成果報告、意見交換
	科学捜査研究会	セミナー開催、研究発表、討論、日本法科学技術学会学術集会参加
情報・磁性デバイス	ナノ組織損傷評価研究会	ナノレベルの材料損傷解明、産業界メンバ - と議論
	キラル磁性研究会	磁性関連測定技術の情報共有、「情報・磁性デバイス」分野間連携
	ナノ・デバイス磁性研究会	X線磁気光学プローブの活用促進、情報発信
新産業育成	磁性分光研究会	磁性情報デバイス研究の促進、複合的磁気測定手法の提案、
	スピン・電子運動量密度研究会	「情報・磁性デバイス」分野内情報交換
	放射光応力・ひずみ評価研究会	放射光応力評価、X線利用手法の討論・検討
先端科学開拓	赤外光励起による新物質プロセス研究会	意見交換、情報交換、新産業への萌芽模索、BL提言
	高圧物質科学研究会	研究成果の共有、先導・先駆研究の方向性議論、地球惑星科学研究会と合同研究会
	核共鳴散乱研究会	あたらな利用者獲得、最新情報交換
	核励起研究会	実験企画立案
	不規則系物質先端科学研究会	HP立ち上げ、情報・意見交換、外的競争資金獲得、講習会開催
	構造物性研究会	物質機能の可視化、他分野との合同研究会
	凝集体の動的構造研究会	研究成果・提案に関する議論、他測定手法との比較検討
	原子・分子の内殻励起研究会	研究状況・成果・動向の調査、研究対象・実験手法の検討、外部資金獲得
	理論研究会	理論家と実験家との連携強化
	超精密結晶構造因子測定とその展開研究会	電子密度分布の超精密測定、測定手段の検討、研究体制の確立
地球惑星科学	固体分光研究会	物性評価・機能性材料創生、新規測定手法の検討
	軟X線実験技術研究会	外部予算獲得、X線自由電子レーザー利用促進研究課題の申請
	地球惑星科学研究会	高圧物質科学研究会と合同研究、交流・情報共有

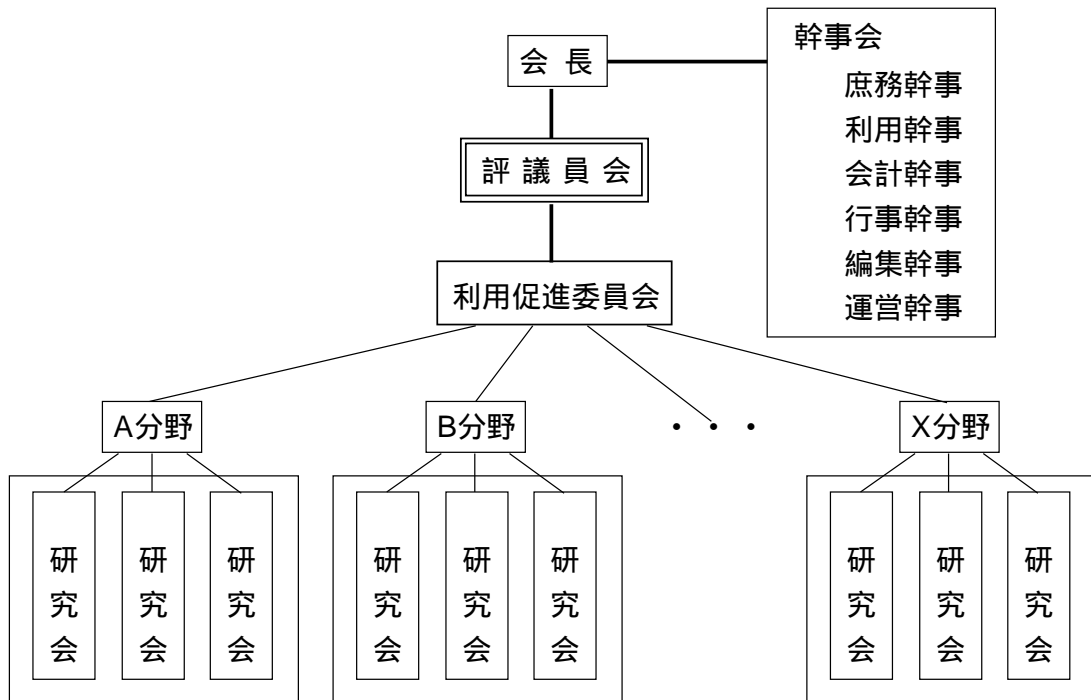


図1 SPring-8 利用者懇談会組織図

会員の方は、関連する研究会に登録されて、有意義な情報の入手や支援を受けられることを望みます。

これら研究会の活動と利用懇の組織との関係を知っていることは、利用懇会員として重要です。図1に示しましたように各研究会は研究内容に関連性のある分野に区分されています。分野にはそれぞれ分野担当者がその分野に所属する研究会の取りまとめや相互の連絡を行うことになっています。各研究会は代表者・副代表者がその活動の世話をし、独自の活動を展開しています。研究会の全体的運営に関しては利用促進委員会が審議討論を行うこととし、その委員は分野担当者および評議員から選出された方々で構成されます。このような組織にしたことで、かつての運営委員会ないしは評議員会だけの組織よりも、利用者の研究活動が利用懇の運営により直接に反映できる組織になったと考えております。また、利用者とSPring-8施設担当者間の意思疎通も取りやすくなるものと期待されます。

活動計画書から読み取れる研究会の足並みは必ずしも揃っていません。具体的な目標を定めて活動を始動したところもあり、これから検討を始めるべく研究会を組織したグループもあります。社会的な広報活動などもどのように具体化するかも今後の検討課題と思われます。また、申請された

必要経費の総額が想定額を大幅に超過していることが分かり、2ヵ年の申請額が100万円を超える研究会に対しては、再検討を依頼することとなりました。利用懇としては利用促進委員会で研究促進のあり方や方向性について審議を重ね、また評議員会からの指示・提案あるいはSPring-8施設からの助言を受けて、2年後に好ましい成果を挙げることを期待しています。

坂井 信彦 SAKAI Nobuhiko  
 兵庫県立大学大学院 物質理学研究科  
 〒678-1297 兵庫県赤穂郡上郡町光都3-2-1  
 TEL : 0791-58-0144 FAX : 0791-58-0146  
 e-mail : n\_sakai@sci.u-hyogo.ac.jp